





霜月 二十日のばん

山の神様のお祭り

モチモチの木に
燈がともる。


一豆太
それじゃあ、
おらば、どうもためだ

一豆太は、(ちっちゃい) 声
で、(なき) そりに
言っただ。

モチモチの木に
対して

おらば、どうもためだ

霜月 二十日のばん



おらば、どうもためだ

一豆太は、勇気があ
るかと田舎でい
ふ。

(おら) も見たこと
がある。
おまえの (人)
見たことあるの
子 (人) の子
見ることはでき
それでも (勇気)
子どもだけだ。

どうして一豆太に祭りの
話をしたのか。

めあて 7/13

霜月二十日のばん
を読み取ろう。

一豆太は、
自信をもった。 (おら)
自分なさいな、
自分なさいな、
自分なさいな、

山の神様のお祭りに
対して

自分
ゆう気があつた。
自分なさいな、
自分なさいな、
自分なさいな、

一豆太は、
自信をもった。
自分なさいな、
自分なさいな、
自分なさいな、

どうして一豆太に祭りの
話をしたのか。

見たいな感じ
見たいな感じ
見たいな感じ

見たいな感じ
見たいな感じ
見たいな感じ

見たいな感じ
見たいな感じ
見たいな感じ







